

会 議 録

会議の名称	令和元年度 第4回日向市子どもの未来応援会議
開催日時	令和2年1月17日（金） 13時30分～15時20分
開催場所	日向市中央公民館 2F レクリエーション室
出席者	<p>【委員】 坂本 毅啓 委員（北九州市立大学） 日田 剛 委員（九州保健福祉大学） 中西 浩美 委員（日向市小・中学校校長会） 関野 ゆかり 委員（生活相談・支援センター「心から」） 椎屋 浩昭 委員（日向市保育協議会） 岩木 恵子 委員（日向市民生委員児童委員協議会） 椎葉 哲男 委員（日向市PTA協議会） 久峯 朋美 委員（宮崎県済生会日向病院） 喜多 裕二 委員（のびのびフリースペース） 西部 末子 委員（排除しないまちづくり「結い」） 三輪 恵子 委員（日向子ども研究所「絆」） 吉田 由美子 委員（スクールソーシャルワーカー）</p> <p>【事務局】 柏田 武浩 事務局長（日向市健康福祉部長） 藤本 一三 事務局次長（日向市健康福祉部福祉課長） 黒木 宗隆 事務局員（日向市健康福祉部福祉課） 伊達 忠亮 事務局員（日向市健康福祉部福祉課） 高山 克巳 事務局員（日向市健康福祉部福祉課）</p> <p>【傍聴者】 ・排除しないまちづくり「結い」1名</p>
議 題	1. 第2期 日向市子どもの未来応援推進計画（案）について
会議資料の名称 及び内容	<p>【レジュメ】 ・第4回日向市子どもの未来応援会議 ・第2期「日向市子どもの未来応援推進計画」（案）</p> <p>【資料／報告】 ・アンケート集計結果について ・「日向市 子どもとご家庭の生活・ニーズに関する調査 集計結果」 ・「日向市 子どもの貧困対策に関する教職員アンケート 集計結果」</p>

記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1. 開会</p> <p>*欠席者：志賀信夫委員、大坪克弘委員、渡邊真悟委員、久光博之委員、堀アトム委員、栗田義隆委員、鈴木保博委員</p> <p>2. 報告</p> <p>・アンケートの集計結果について</p> <p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標」欄の数値は、前回（H28.12）調査 ・「評価」欄の数値は、今回（R1.10）調査 ・小学生の集計結果から、独自指標への影響、変化がみられた主な設問と結果（家計の支援、環境の整備、能力の形成等） <p>*意見、質疑等は議事の中で行う。</p> <p>3. 議事</p> <p>1) 第2期日向市子どもの未来応援推進計画（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1章 はじめに 第2章 本市の子どもを取り巻く現状 第3章 計画の基本理念・指標・施策体系 第4章 施策の展開 第5章 計画の推進 <p><事務局説明></p> <p>【レジュメ】</p> <p>(第1章～第4章：追記修正箇所のみ)</p> <p>第1章 はじめに</p> <p>2. 第2期計画の策定にあたって</p> <p>第2章 本市の子どもを取り巻く現状</p> <p>2. 保護者及び教職員アンケート調査の結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「子どもと家庭の生活・ニーズに関する調査」（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> ・回答状況 ・自由筆記 (2) 「子どもの貧困対策に関する教職員アンケート」（抜粋） <ul style="list-style-type: none"> ・回答状況 ・子どもや家庭の状況、生活困窮をめぐる身近な課題、貧困対策の拡充等への意見 	

第3章 計画の基本理念・指標・施策体系

1. 基本理念

(1) 「子どもの貧困」の定義

(2) 基本理念

2. 指標と施策の柱立て

(1) 子どもの貧困に関する指標

第4章 施策の展開

施策1. 学福連携・市民協働による子ども応援

施策2. 子どもの成長段階に応じた切れ目のないサポート

施策3. 各家庭のニーズをふまえた総合的な生活支援

施策4. 支援を届けるネットワークの拡充

第5章 計画の推進（新規提案）

1. 行政と市民の役割

(1) 行政の役割～施策・支援の推進と連携

(2) 市民の役割～「子どもの日向（ひなた）づくり運動の推進」

・「子どもの日向（ひなた）づくり運動」取り組み項目

・子どもの支援、応援に取り組む日向市の民間支援、地域資源

2. 計画の進捗管理

(1) 「子どもの未来応援会議」の役割

(2) 計画の進捗管理

[意見、質疑等]

会 長：52ページからの第5章について、質問・意見はないか。

委 員：53ページの「子どもの日向（ひなた）づくり運動」では、まず家庭に対して、このような取り組みを実践して行きましょう、と始まっているが、家庭があって、学校があって、地域があると考えると、記載順は、地域、企業・産業の方がわかりやすいのではないか。

事 務 局：第1期計画と同じ並びにしていたが、ご意見のように「家庭、地域、企業・産業」の並びに変更したい。項目等について、ご意見があればお願いしたい。

委 員：54ページからの「子どもの支援・応援に取り組む日向市の民間支援・地域資源」は、福祉課で調査したものか。

事 務 局：福祉課で、庁内関係課、小中学校、高校、社協に照会して、取りまとめたもの。

委 員：社協が市から委託を受けている、大王谷コミュニティセンターや日知屋児童館では、毎月小中学生や親子を対象にした事業をやっているの、それも記載してはどうか。また、障がい児に関わる所が入っていないので、白浜学園で行っている「あんばんまん」とか、もう少し調べてもらえたら助かる。

委 員：関連して。五十音順に並べられているが、生活圏域として、6箇所地域包括支援センターの圏域ごとに整理してはどうか。地域毎に整理されていれば、住民にとって身近な社会資源がどこにあるか、また自分の住む地域に、足りない資源も分かりやすくなるのではないかと思う。社協で実施している、学習支援や居場所サロンは

入らないか。

事務局：対象団体については、再度把握・検討することとしたい。また記載順については、ありがたいご意見であり、採用させていただきたい。

委員：「子どもの日向（ひなた）づくり運動」の企業・産業への働きかけとして、有給休暇の取得や、定時で退勤できるための仕事のシェア、などが記載されている。アンケートの自由筆記欄に「パワハラ」であるとか、「賃金が安いけど辞められない」であるとか、他に選択肢がないことから、そういう環境の中でも仕事を続けて行かないといけない実情が訴えられているが、企業側としては、人件費を削ってでも損失を出さないように、という傾向がますます強まっていく中で、具体的にどのように進めていく考えがあるのか。何かビジョンがあればお聞きしたい。

事務局：自由筆記欄については、働いている人の率直な意見が赤裸々に記載されている、と思う。市議会でも、パワハラやモラハラに関する市民への啓発について、質問があり、総合政策課の方で、今後示される予定の厚労省のガイドラインなどを受けて企業啓発等を検討していく、と答弁している。これらの保護者の声を、商工港湾課に情報提供し、周知について検討頂こうか、と考えている。色々な問題や矛盾を抱えながら働いている現状があり、就業規則を明示し、その権利を行使できる職場づくりを推進して行くには、自治体だけではなく、国県を含めて取り組む必要があると考えている。

委員：働きやすい環境であることは、巡り巡って少子化対策や子どもの貧困対策になると思う。出来れば、今後、計画を実行する場に、企業などを巻き込んで、一緒に参加してもらおうような、仕組みを考えて頂きたい。

委員：『日向子ども研究所「絆」』では、最近、「きずなカフェぼかぼか」を開設した。誰でも、お茶を飲みに来たり、話に来たり出来る居場所として、法務局跡地の「ひむかビズ」の1階にある、IT企業の社員食堂を、日曜日に提供頂いている。地域の事業者が関心を持ち、支援したいという動きもあり、そういうのをキャッチ出来れば、と感じている。「民間支援・地域資源」に追加をお願いしたい。

委員：第5章全般と、前回と今回のアンケート調査の比較について。計画の進捗管理として「PDCAサイクル」とあるが、今回の計画がうまく進んで行くのか、その実効性、政策評価という点で言えば、この図の通りと思う。では、具体的にどうチェックするか。今日の会議資料には、前回調査との指標の対比表が配付されている。この指標の変化から、この3年間で、子どもの生活実態に変化が見られた、ということは読み取れる。また、前回小学3年生の保護者、今回6年生と、同じ対象群に調査を行った、この変化の測定は大きかったと思う。では、何故、子ども達の生活実態に変化が起きたのか、それは一つ一つのチェック作業になり、導くのは非常に難しいが、各アンケートの回答の該当率が減った・増えただけではなく、例えば、困窮層の困窮度合が深刻化したかどうか、一深刻度合というのは計測することができる一、そこまで踏まえた上で、本当に改善されたと言えるか、もう少し深い調査・分析が必要になってくる、と思う。それから、この3年間取り組んできたことが、この変化にどう関係して来たのか、整理しておく必要がある、と思う。方法として、

私の考えでは、ここから先は次年度以降の課題になると思うが、P54～56 に掲載されている民間団体等に、1年くらいかけてこれまでの活動内容のヒアリングやアンケートを実施するとか、或いは、H29年1月時点での19団体が、3年間の取り組みを通じて、どんな変化を感じているのか、ヒアリングをするなど、民間の頑張りをどう吸い上げて評価するか、必要ではないか、と思う。もう一つは、地域や企業・産業にも協力してもらいたい、という中で、働きやすい環境が何故必要なのか、という話になってきた時に、実際にどんな人達がどんな取り組みをしているのか、調査し、事例集の作成や、事例を共有する場を設けることができると、活動を振り返る機会になり、市民に広げるなど、よりよいものにできるのではないかと、思う。ここまで取り組んだ上でのチェックになるのではないかと。「P D C A サイクル」の中で、次年度以降、このような分析をすることで、より実効性のあるものになっていくと、思う。

事務局：アンケート項目に対する結果なので、背景となる分析が足りていないというのは、ご指摘のとおりだと思います。民間支援等の情報収集が出来ている点で言えば、ご提案いただいたとおり、ヒアリングやアンケートの実施について、今後検討出来ればと考えている。各課の重点施策については、関連があると思われるアンケート調査の結果を情報提供し、改善につながるような取り組みを促すことを、次の課題として検討したい。事務局の体制の問題もあるが、委員の皆様から、お知恵をいただきながら、今後の取り組みを検討していきたい。

委員：第1期計画には、第3章に「本市の強み」という項目がある。実態を把握して、課題があって、それを整理して、次の施策につなげていくという時に、出来ない事や課題ばかりが見えて来た、だけではなくて、一番知ってもらいたいのは、こんな強みがあります、これをやっています、という部分ではないかと思う。今回「本市の強み」の項目がないのは、何か理由があるのか、初めてこの計画を手にする方もいるので、記載があった方がよいかと思う。私の理解不足であれば申し訳ない。

事務局：第1期計画は、初めての計画であったため、「本市の強み」という項目を設け、それを踏まえ、行政や民間の取り組みに活かしていく、という構成とした。今回の第2期計画では、冒頭の「(第1期)計画のふりかえり」で、施策の取り組み経過(成果)と、広がりを見せる民間支援という項目を設け、第1期計画の見直し、という構成とした。第1期計画を策定した時には職員から、非常に網羅されたい計画だという意見があった反面、現役世代の親御さんにとって読みやすいだろうか、という意見もいただいた。第1期計画を踏まえて強まった、本市の強み、ストレングスの掲載については工夫・検討したい。

委員：第1期計画の第3章に、「本市の強み」が1頁相当に書かれており、いい事が書かれているな、と改めて思った。例えば、これだけの団体が、学校・地域で頑張っているということは、日向市の強み以外の何物でもないと思うので、改めて「本市の強み」の項を設ける、或いは、54頁の上書き書き足すだけでも印象が変わってくると思う。

事務局：ご意見を参考にさせていただきます。

2) その他

委員：28ページにある子どもの遊び場について、個人で遊び場を作られている方がいるので、周知できるとよい。子ども研究所「絆」の取り組みを聞いて、シルバー世代で、身近に空家があったり、場所も人間もあって、今まで子どもを育てて色々やって来たからお手伝いは出来るけど、自分達を中心になっては頑張れないと、よく話を聞く。今回、話を聞いて大変勉強になった。

委員：27頁「自由筆記」欄に、『保育園の無償化が始まったが、義務教育である学校給食も無償化、あるいは減額してほしい』という意見がある。これは、アンケートを取った時期と、無償化が始まった時期が重なったため、情報が行き届いてなかった部分もあるかと思うが、保育園・認定子ども園・幼稚園の無償化の中でも、給食費は無償化されてない。いろいろと活動したが、恐らく幼稚園や学校給食などとの兼ね合いもあって、そのような結論になったものと思う。給食費については、実情と異なることを指摘しておく。28頁の『学校教育環境の整備：学校に気持ち良く通え、学べるような学校を整えていただきたい』という意見について。小学1年生が「お母さんがいい」と泣くことや、給食に関する意見があるが、これらは実際に起こっていることだと思う。保育園から学校に進み、ハード面でもソフト面でも大きく環境が変わり、学校で頑張ると家に帰ると「お母さんがいい」という、子どもの心理は当然のことだと思う。私達は、環境の変化でつまづきがないように、しっかりつなげるということに苦心している。例えば、まだ学校では和式のトイレが多いので、保育園でも増改築する時に和式を手配するなど。言いたいことは、学校でも色々取り組まれている中で、ネガティブなイメージにならないかなど、個人的には思う。

会長：自由筆記の意見は、そのままの文章で記載しているのか。

事務局：基本的に意見はそのままにしているが、全て載せることはできないので絞っている。一方で、率直な声を記載したいので、掲載の仕方は検討したい。また、民間支援・地域資源の周知については、市としてどのようにやっていけるか検討したい。

委員：アンケートの設問で「本当に困ったときに相談できる人がいますか」とあるが、本当に困ったときとは、どういう状況をいうのか気になった。具体的に、仕事の事なのか、子育ての事なのか、学校の事なのか等、アンケートの設問の仕方を工夫して分類ができれば、今後の参考になるのではと思った。

委員：自由筆記について。どの意見を掲載するか、検討すると言われたが、検討することはとても大事だと思う。但し、今意見があったとおり、分類だとか、ある程度積み上げるのも必要だと思う。それと、その意見を載せるか載せないか判断するのは、ある種危険で、意志が働くため問題が見えなくなってしまうと、困難を抱えた方の意見を排除することにもなりかねないので、迷った場合は載せて欲しい。専門的な判断を必要とすることがあれば相談して欲しい。

会長：全体をとおして意見はないか。なければ、これで本日の議事を終了します。

4. 次回会議の日程

第5回会議 2月議会終了後で調整

*連絡

事務局：「日向市暮らし・子育て応援ガイド」（パンフ）の内容について、変更があれば連絡頂きたい。

委員：「日向市生活相談・支援センター心から報告会」の開催案内。

5. 閉会